平成25年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	実践的英語コミュニケーション力をもつ高度専門技術者を育成する教育課程の構築
実施組織 (または対象のカリキュラム)	総合工学系研究科(理学部:玉木大教授、工学部:海尻賢二教授、農学部:藤井博教授、繊維学部:平林公男教授)
※連携する他学部・機関がある場合は記入	全学教育機構 英語部門
実施責任者(所属)	平林公男 (繊維学部)
取組の目標	職業現場で使える実践的な英語発信力を持つ理系技術者人材の育成
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 昨年度、4学部で立ち上げた「英語コミュニケーション推進ワーキング」において、情報交換と、各学部内における広報、6、11月に実施したTOEIC-IP試験の実施に向けた準備を行った。 2. TOEIC-IP試験の実施：繊維学部においては、1,2年次生全員が、工学部においては1年次生全員が6月と12月にTOEIC-IP試験を受験した。南箕輪キャンパスでは、年間にのべ67名、若里キャンパスでは64名、松本キャンパスでは1861名、上田キャンパスでは605名がTOEIC-IP試験を受験した(信州大学全体で2597名が受験。全体の62.4%が1年生)。工学部、理学部、農学部においては、受験料の補助を行った。各学部で高得点者を把握でき、留学推薦対象者やTOEIC-SW、TOEFL受験推薦対象者を拾い出すことができた。 3. リーディング大学院プログラムでは、TOEIC公開TEST、TOEIC-SW TESTの受験を義務化した。繊維学部では、12月TOEIC-SW試験を実施(学部生20名)+(大学院生15名)が受験。学内版リーディング大学院でも、TOEIC公開試験の受験を義務化(目標730点以上)。 4. 広報活動：3キャンパス(松本、南箕輪、若里)においてTOEIC説明会開催(11/11農学、11/12工学、松本)。上田キャンパスにおいては、TOEIC-SW講演会(12/9)を実施し、198人の参加を得た。 5. モチベーションの維持：学部長表彰を設置し、表彰状と記念品を、4月の新2年生ガイダンスの折に手渡し表彰した(新3年生で、1年から2年までの4回の試験で、最終スコアが最も高かった者→ベストスコア賞。1回目のスコア値から最終のスコア値(700点以上)で、最も伸びの高かった者→ベスト努力賞)。 6. H24年度開始事業の継続・発展：H24年度実施した①実践的英語ライティング/スピーキング演習の実施、②ALC NetAcademyを厳格に実施し、教室外学習を強化した。③厳格な成績評価、単位の実質化を実施、④H18年度からH25年度までの学生データの分析。(いずれも繊維学部において、実施し、そのノウハウを他学部にも説明、一部実施に向けての準備・検討を行った。)

2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた ○b. おおよそ達成できた c. 半ば達成できた d. おおよそ達成できなかった e. 達成できなかった	(そう評価する理由)H25年12月のTOEIC-IP試験受験者数(直近データ)では、繊維学部576(比較のためH24年12月の受験者数は610)名、工学部509(50)名、農学部57(68)名、理学部31(46)名、他学部70(58)名の合計1243(832)名で、年々受験者は増加している。今年の傾向としては、IP試験よりも、公開試験(就活で求められる)の受験者が増加している。大変良い傾向である。また、各学部での高得点者の点数も上昇傾向にある(工845、理970、理840など)。さらなる広報活動を通じて、受験者の増加をはかっていく。また、全学教育機構との連携を強化し、情報を共有することもでき、協力体制が構築できた。 (今後の展望)3年次以上の高年次の英語教育をどのように進めていくかが課題。3年次以降、繊維学部でも英語の授業がない課程があるほか、大学院修士課程においてはほとんどの専攻に英語の授業がない現実がある。ある一定の英語力を持たせて修了させるためには、教室外学習の強化、モチベーションの維持、外から見えるカリキュラムの実質化が急務である。